

# 平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.50

2009.10.7

発行：平和憲法・9条をまもる  
岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019 - 684 - 2225

FAX019 - 684 - 2227

自民党政治に終止符！

## 民主党政権で憲法改正問題はどうか

～いまこそ憲法を活かす国民運動の重要性～

「平和憲法・9条をまもる岩手の会」よびかけ人 加藤 善正

(岩手県生協連会長理事)

8・30総選挙の結果は自公政権の退場、民・社・国3党連立内閣誕生となり、日本政治の新しい展望を期待させることになった。この新しい政治体制が憲法問題にどのような影響をもたらすか、平和憲法・9条を守る運動を粘り強く展開してきた私たち国民の関心も大きい。私見を述べて皆さんのこれからの論議に参加してみたい。

9月1日の朝日新聞に新議員480人の憲法に関する意識調査の結果が掲載された。朝日新聞と東大谷口研究室が総選挙前に立候補予定者へのアンケートから、当選者の回答を抽出集計したものである。

それによると、憲法改正に「賛成」なのは31%、「どちらかといえば賛成」が28%となり、賛成派が59%を占めているとはいえ、改憲発議に必要な3分の2を下回った。この記事によると同様な趣旨を聞いた2005年は「改正すべきだ」が72%、「どちらかといえば改正すべきだ」が15%で、改憲派が87%を占めていた。記事は「単純には比較できないが、積極的な改憲派は半減している」と述べている。また、これまで「改憲」の旗を振り続けてきた中山太郎（自民党憲法審議会会長）氏の落選など、積極的改憲派の後退を象徴する選挙結果であることは確かであり、全国に7,000以上も作られた「9条の会」など、安倍内閣の危険な改憲策動に機敏に反対した国民運動の成果が見て取れる。

さらに、9月9日に発表された民主党・社民党・国民新党の連立合意書には「日本国憲法の『平和主義』をはじめ『国民主権』『基本的人権の尊重』の3原則の遵守を確認するとともに、憲法の保障する諸権利の実現を第一とし、国民の生活再建に全力を挙げる」と書き込まれた。このように見ると3党連立政権が続く間は改憲発議はなさそうである。

しかし、油断は禁物であることも確かである。先の朝日の記事によると、民主党の議員だけでは、「賛成」16%、「どちらかといえば賛成」30%で計46%、「どちらともいえない」が31%と多く、「どちらかといえば反対」が13%、「反対」は9%に過ぎず、「改憲反対」は22%の少数派である。さらに鳩山首相は「新憲法制定議員同盟」の「顧問」を辞任したというニュースもない。

鳩山由紀夫氏は2005年、「新憲法試案」(PHP社から刊行、1,500円)において、現行憲法の限界を示し、「尊厳ある日本を創る新しい憲法を大胆に提起する」と発表している。この本では憲法9条2項は「最も欺瞞的」だと非難して、これを改めて「自衛軍保持」を明記し、海外での武力行使、集団的自衛権の行使を認めるべきだとしている。また前文では「明治憲法を引き継ぐ」ことを述べ、天皇を元首にすることを明記している。

このように民主党の体質はこれまでの言動から「護憲」というよりも「改憲」であると見るのが的を得ているのではないか。

(次号に続く)

台風の影響で雨・風が強い場合はお休みします

今月の署名行動

10月の「岩手の会」街頭宣伝行動は、9日(金)12:00~45大通り・野村証券向いにて行います

感動の4

# いわて女性・九条の会 4周年記念講演

2009年9月12日開催

今回の講師、高遠菜穂子さんは2004年4月、イラク支援で4回目に入国した時、激戦のファルージャ近郊で、米兵に肉親を殺され、怒り狂う地元民に拘束された。それは日本国内でも「自己責任」と激しくバッシングされた。しかし、高遠さんは怒れるイラク人が彼女たちを殺さないで生かしたことで、イラクの悲しみを体に刻み、死者の無念を伝えようと決意。国内はもちろん、アメリカや香港、台湾で600回を超えるイラクの報告会に出向き、カンパを訴え、3,700万円を超える支援をイラクに届けた。拘束から4ヶ月後の2004年8月には隣国ヨルダンからイラク支援を再開し、バグダッドで薬物依存の路上生活の子どもたちに「子ども自立支援プロジェクト」として就職斡旋と職業訓練プログラムの基盤作りを完了。現在は、「ファルージャ再建プロジェクト」をイラク人と共に、病院や学校の再建事業に使われている。



高遠 菜穂子 さん

今年4月、5年ぶりにイラク入国が許された。「事件以来止まっていた私の中の時計がいま動き出した...」  
「私の命はイラクの人々に生かされ、日本の人々に支えられた」と高遠さんは思いを語る。

軍需産業を背景に、アメリカのイラク攻撃は残虐を極めた。ラマディーでは「インクスポット作戦」による掃討作戦で、1万人以上が大虐殺されていた事実を知り、無力を詫びつつ広場や市内いたるところにある墓地に手を合わせたと言う。

今回は、現地や外国の報道関係者が撮った記録映像も含め、イラク戦争の知られざる写真や映像を公開。死体が青光りする映像は新兵器といわれる「白リン弾」を疑わせ、神経麻痺ガスの使用や劣化ウラン弾の後遺症で無残な子どもの姿、血肉が飛び散る死体の映像は私たちの心に深く「戦争」の無残さを訴えた。

アメリカのでっち上げでズタズタに引き裂かれたイラク社会。統一をめざして、今部族による治安維持組織が宗派対立を乗り越えようとしている。が、未来像はまだ定まっていないと言う。米兵もその傷は深い。戦争は破壊のみだと高遠さんは「反戦」を誓い、「9条世界会議」呼びかけ人になった。

## 職場9条の会で平和ツアー



いわて生協 9条を守る共同購入の会



いわて生協の「9条を守る共同購入の会」は定例で学習会などの企画を開催しています。今回は北上平和記念展示館の見学に出かけました（9月27日（日）参加8名）。

展示館には地元の農民兵が関わった戦争時の生々しい出来事が克明にわかる資料が多く、あらためて戦争の愚かさ、悲惨さを知る機会になりました。スタッフの方のわかりやすい説明（要予約）もあり、岩手県民ならぜひ一度は訪れて欲しい場所だと思います。

見学後は夏油高原に移動し、バーベキューや温泉、パターゴルフなどを楽しみ、会員の親睦を深める有意義な1日となりました。